

# 青森県立三本木農業恵拓高等学校

エコフィードのステージ別給与が黒毛和種の肉質に与える影響

校門から続く桜並木「三農桜」は地域の名所でもある



## 継続研究でおいしい牛肉生産を目指す

### 初代から続く「Cow 飼う's」の研究

青森県立三本木農業恵拓高等学校では動物科学科・産業動物研究班、通称「Cow 飼う's」のメンバーがエコフィードなどを利用した黒毛和種の肉質向上に挑んでいる。担当の松本理祐教諭は「2022年度のプロジェク<sup>まっもとだすけ</sup>ト始動時にいた初代メンバーが全員畜産農家(牛飼い)の後継者だったことが通称の由来です」と話す。

4代目となる現在の新3年生は、「初代の先輩から続く高オレイン酸ヒマワリ種子の給与で牛の脂肪中オレイン酸割合を高める研究をしています」(伊藤ひよりさん)と言うほか、2、3代目が始めた高タンパクな酒粕や高カロリーな醤油粕を牛の月齢に合わせて給与する研究も継承。肉量(歩留り)判定の重要基準であるロース芯(胸最長筋)面積の拡大に向けての研究も進めている。



「Cow 飼う's」4代目メンバー。牛肉生産の苦労を知り、「食べ物に関わる人たちに感謝するようになった」と口を揃える



牛への給与準備。エコフィードの配合割合などで食い込み具合が変わる



●実施担当

松本理祐 教諭

●活動のモットー

誰のためにやる、誰に届ける、誰が喜ぶ、を明確にすることを重視し、「畜産農家のためにできること」を研究の主旨としている。



保育園児との交流会。食育活動のほか給食用に三農産牛肉を提供している

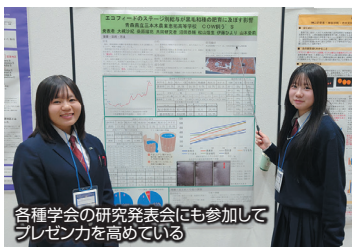


スーパーでの牛肉販売会。試食した人の8割が購入した

### 助成の申請書類も自分で作成

通常、肉牛は出荷までに約30ヵ月を要し、研究結果が出るまでにタイムラグが生じる。そのため、高校での肥育研究は先輩たちから受け継いだ研究の継続がベースとなるが、後輩たちはそこに新たな取り組みを加えてより良い牛肉生産を目指す。

4代目 Cow 飼う's では「特産であるリンゴジュースの絞り粕を飼料化する研究」(沼田恭輔さん、山本愛莉さん)を始めているほか、「近隣保育園と高オレイン酸ヒマワリを植える交流会や紙芝居を使った園児への食育活動」(松山煌生さん)、地元スーパーで年に数回「三農産牛肉」の販売会も行って、「リピーターが多く、試食で美味しいと言われたりエコフィードの取り組みに賛同してもらったりしたのがうれしかったです」(大槻沙紀さん)と微笑む。さらに「今後は乳牛にもエコフィードを活用して飼料費削減効果を検証したい」(桑原瑠花さん)と、新たな取り組みへの意欲が止まらない。(個別校助成)



各種学会の研究発表会にも参加してプレゼン力を高めている

学校概要



2021年度に三本木農業、十和田西、六戸の県立3校が統合し、農業系学科と普通科を併置する。県内で唯一畜産が学べる高校。

設立: 1898年

生徒数: 523人

所在地: 青森県十和田市大字相坂字高清水78-92

この活動は、中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人 中谷財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索

